

第3期出雲市保幼小連携推進基本計画の一部改訂について

令和6年2月に策定した「第3期出雲市保幼小連携推進基本計画（計画期間：令和6年度～令和10年度）」（以下「第3期計画」という。）について、第3期計画策定後の本市の取組状況等を踏まえ、一部改訂（見直し）を行いました。

1 改訂の理由

令和4年3月に文部科学省から「幼保小の架け橋プログラム」が発表され、翌年には「学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～」が示されました。その中で、5歳児から小学校1年生までの2年間を「架け橋期」として焦点をあて、生涯に渡る学びや生活の基盤をつくるため、「架け橋期のカリキュラム※1」を策定し、評価することとされました。

本市では、現在、県の幼小連携・接続推進実践研究事業（令和7年度～令和9年度）を受託し、架け橋期における教育の充実を図るため、モデル校区を指定して、幼児教育施設と小学校が協働して架け橋期のカリキュラムを策定する取組を進めています。

また、この研究事業の成果を踏まえ、市内全小学校区（または中学校区）において、架け橋期のカリキュラムを策定することとしました。

こうした状況を踏まえ、「第3期計画」の一部を改訂するものです。

2 改訂の概要

- (1) 架け橋期のカリキュラムの策定・評価を第3期計画へ位置づける。
- (2) 接続期のカリキュラムの見直しを第3期計画へ位置づける。

3 改訂の詳細

- (1) 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校が協働して、架け橋期のカリキュラムを、令和9年度末までに、全小学校区（または中学校区）ごとに策定することを追記します。
- (2) 架け橋期のカリキュラムの策定を受け、接続期のカリキュラム※2（アプローチカリキュラム※3とスタートカリキュラム※4をあわせたもの）の見直しを図ることを追記します。
- (3) いずれのカリキュラムも、実践しながら成果や課題を明らかにする等、PDCAサイクルで評価・改善していくことを追記します。

※1 架け橋期のカリキュラム

…5歳児から小学校1年生までの2年間を対象とした教育の全体計画

※2 接続期のカリキュラム

…アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムをあわせたもの

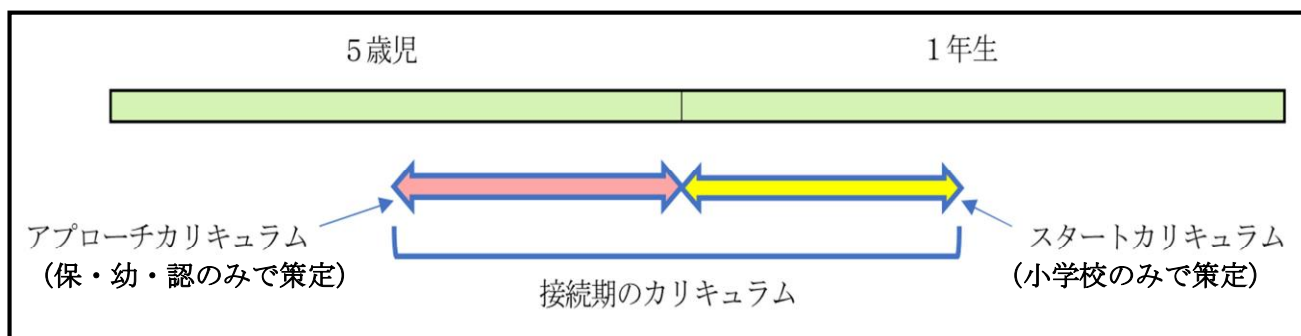
※3 アプローチカリキュラム

…5歳児後半（10月から3月）の半年間を対象とした教育の全体計画

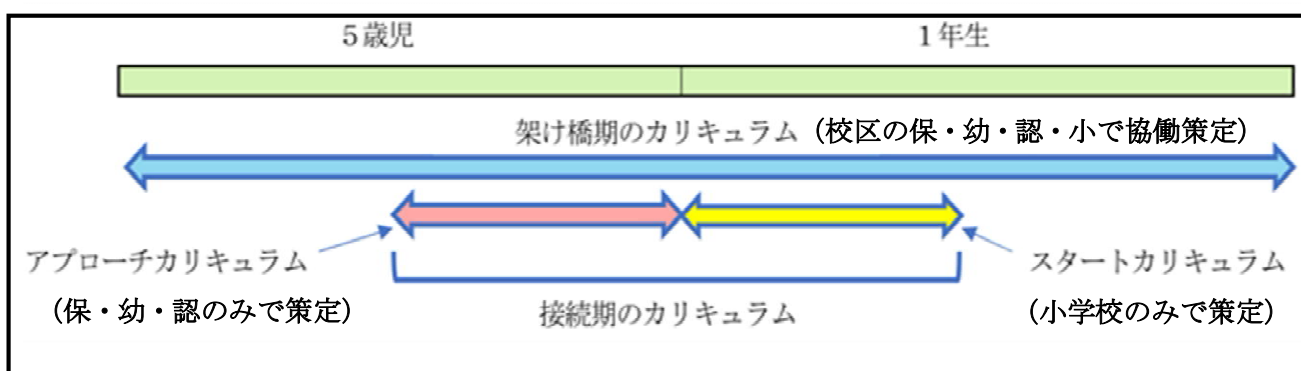
※4 スタートカリキュラム

…1年生前半（4月から9月）の半年間を対象とした教育の全体計画

現 行



令和10年度～



【参考】

1 保幼小連携推進事業の趣旨

幼児期から学童期への円滑な接続のため、幼児期教育と小学校教育の連携の強化を図り、保幼小が連携した教育システムを構築することで、全市で統一的に保幼小連携を推進するとともに、それぞれの教育の質の向上と活性化を図る。

2 主な事業の内容

(1) 保幼小連携のあり方の研究

保育所・幼稚園・小学校等の職員で構成された出雲市保幼小連携推進委員会において、保幼小連携のあり方を調査研究する。

(2) 保幼小連携の推進

保育所・幼稚園・認定こども園・小学校で連携担当者を設置し、連絡協議会を設けるなど、教職員相互の連携・協力・交流体制を整えるとともに、幼児と児童相互の交流活動の充実を図る。

(3) 「保幼小交流の日」の実施

翌年の小学校就学予定児及びその保護者を対象にした小学校との交流活動「出雲市保幼小交流の日」を実施する。

第3期出雲市保幼小連携推進基本計画

令和6年2月

令和8年6月 改訂

出雲市教育委員会

用語について

本計画において用いる用語の指す内容は、次のとおりとします。ただし、固有名詞や常套的表現等については除きます。

区分	用いる用語	指す内容
子ども	幼児	保育所・認定こども園及び幼稚園の園児
	年長児	5歳児
	年中児	4歳児
	児童	小学生
校種等	保育所等	保育所及び認定こども園
	所・園・校	保育所・認定こども園・幼稚園及び小学校
職員	保育士等	保育所及び認定こども園の保育士及び他の職員
	保幼小職員	保育士等・幼稚園の教職員及び小学校の教職員

目 次

はじめに	5
1 保育所等・幼稚園・小学校の現状	6
(1) 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校の設置状況	6
(2) 小学校の現状	6
2 保幼小連携の現状及び成果と課題	7
(1) 幼児と児童の交流に関すること	7
(2) 保育士等・幼稚園の教職員と小学校の教職員の連携に関すること	9
(3) 所・園・校内の協力体制に関すること	10
(4) 保護者や地域への啓発活動に関すること	11
(5) 接続期のカリキュラムに関すること	13
(6) 年中児の時期からの情報共有に関すること	14
3 保護者の意識	15
(1) 小学校入学に際しての不安や心配の状況	15
(2) 所・園・校に対する要望事項	17
(3) 保護者としてすべきこと、子どもに身につけさせたいこと	18
4 期待される姿	19
5 保幼小連携の充実にに向けた方策	20
(1) 幼児と児童の交流に関すること	20
(2) 保育士等・幼稚園の教職員と小学校の教職員の連携に関すること	21
(3) 所・園・校内の協力体制に関すること	21
(4) 保護者や地域への啓発活動に関すること	21
(5) 架け橋期のカリキュラム・接続期のカリキュラムに関すること	21
(6) 年中児の時期からの情報共有に関すること	22
各様式等	
・交流計画書（様式1）	23
・出雲市保幼小連携年間計画（様式2）	25
・小学校と幼稚園・保育所等との交流が可能な活動例（年間計画用参考資料）	26
・保幼小連携チェックシート（様式3）	27
・接続期の育ちのつながり	28
・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿	29
・架け橋期のカリキュラム（様式4）	30
・架け橋期のカリキュラム例	31
・アプローチカリキュラム（様式5-1）	32
・アプローチカリキュラム（様式5-2）	33
・アプローチカリキュラム例1	34

・アプローチカリキュラム例2	・・・・・・・・・・・・・・・・	35
・スタートカリキュラム(様式6)	・・・・・・・・・・・・・・・・	36
・スタートカリキュラム例	・・・・・・・・・・・・・・・・	37
・出雲市 年中児 そだちの応援シート(様式7)	・・・・・・・・・・・・・・・・	38
出雲市保幼小連携推進委員会委員(出雲市立教育研究所研究員)名簿	・・・・・・・・	41

はじめに

本市では、幼児の生活・発達や学びの連続性を踏まえて幼児教育と小学校教育を円滑に接続・連携させていくことを目指し、平成19年度から保幼小一貫教育（平成25年度から保幼小連携）推進の取組を開始しました。

平成26年4月には、出雲市保幼小連携推進基本計画を策定し、幼児と児童の交流や保幼小職員の連携、保護者や地域への啓発活動、接続期カリキュラムの接続等の取組を行ってきました。そして、各所・園・校対象の「保幼小連携チェックシート」による評価をしながら、次年度の事業計画や研修内容等の充実を図ってきました。

その中で、全市一斉に「保幼小交流の日」を実施しており、幼児・保護者の参加率も高く、就学への期待や安心感を育む機会となっています。また、保幼小職員合同研修会の開催等により、保幼小職員の「顔の見える連携」や各所・園・校における接続期カリキュラムの作成が進んできました。

また、平成29年3月に改訂された保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領及び小学校学習指導要領では、これまで以上に保幼小連携を強化し、連続性と一貫性をもった幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続を図ることの重要性が示されました。

こうした状況を踏まえ、これまでの保幼小連携の成果と課題を整理し、さらに子どもたちの育ちと学びのつながりを大切にした保幼小連携を推進するため、平成31年4月に「第2期出雲市保幼小連携推進基本計画（以下、「第2期計画」という。）を策定しました。この計画では、主に接続期カリキュラムの充実や年中児の時期からの情報共有等についての推進を図ることとしました。

しかし、第2期計画期間中の令和2年度には、新型コロナウイルス感染症が拡大し、保幼小連携に係る交流や研修会の中止を余儀なくされました。そのような状況下ではありましたが、工夫をしながら新たな取組をするなど、一定の成果をあげています。市全体で先進的に取り組んできた保幼小連携が、着実に根付いてきていることが強みとなっています。

この度、第2期計画の成果や課題を整理するとともに、「幼保小の架け橋プログラム」（令和4年4月 文部科学省）も踏まえた実践を目指し、令和6年度から令和10年度までを計画期間とする「第3期出雲市保幼小連携推進基本計画（以下、「第3期計画」という。）を策定しました。

この計画をもとに、各所・園・校が家庭・地域と連携しながら、それぞれの保育・教育をより一層充実していくことを願っています。

最後に、この計画の策定にあたり、多大なるご尽力をいただいた出雲市保幼小連携推進委員の皆様にご心から感謝を申し上げます。

1 保育所等・幼稚園・小学校の現状

(1) 保育所・幼稚園・認定こども園・小学校の設置状況（令和8年5月1日現在）

区分		出雲地域	平田地域	佐田地域	多伎地域	湖陵地域	大社地域	斐川地域	計
保育所	市立	1		2				1	4
	私立	34	6			1	3	6	50
	計	35	6	2		1	3	7	54
幼稚園	市立	16	2			1	3	3	25
	私立								
	計	16	2			1	3	3	25
認定こども園	市立								
	私立		1		1			2	4
	計		1		1			2	4
小学校(市立)		13	6	1	1	1	3	4	29

(2) 小学校の現状

小学校1年生は、保育所・認定こども園から77%、幼稚園から19%、その他から4%が入学している（令和8年度）。

小学校への入学状況は、小学校区内の保育所等及び幼稚園から入学している学校や、校区内のみならず、校区外の保育所等及び幼稚園から入学する学校もある。

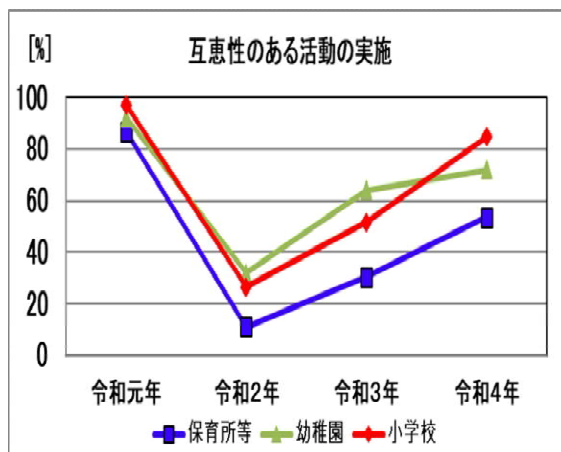
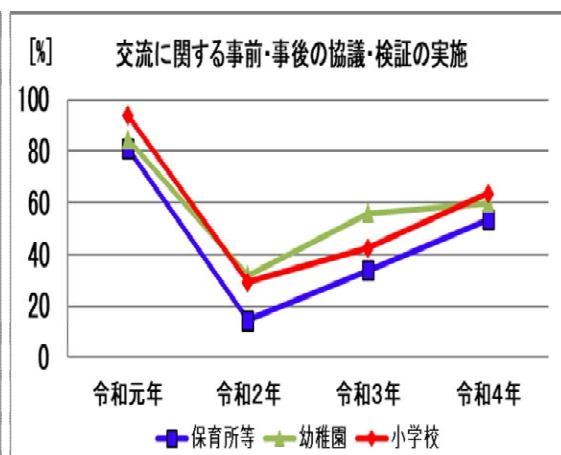
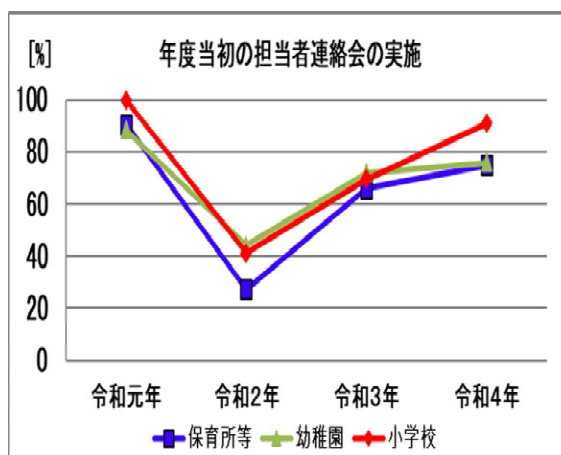
2 保幼小連携の現状及び成果と課題

本市における保幼小連携の現状及び成果と課題を明らかにするため、下記の6つの視点から「保幼小連携チェックシート」による評価を実施した。

評価の視点

- (1) 幼児と児童の交流に関すること
- (2) 保育士等・幼稚園の教職員と小学校の教職員の連携に関すること
- (3) 所・園・校内の協力体制に関すること
- (4) 保護者や地域への啓発活動に関すること
- (5) 接続期のカリキュラムに関すること
- (6) 年中児の時期からの情報共有に関すること

(1) 幼児と児童の交流に関すること



【成果】

- 保幼小の情報交換の効率化
- 方法を厳選した交流活動の実施
- 幼児の就学への期待や憧れ、安心感や親近感の醸成
- 児童の思いやりの心の醸成、自己有用感の育成

【課題】

- 事前・事後の協議・検証による共通理解の推進

○ 互恵性をより意識した活動の推進

【考察】

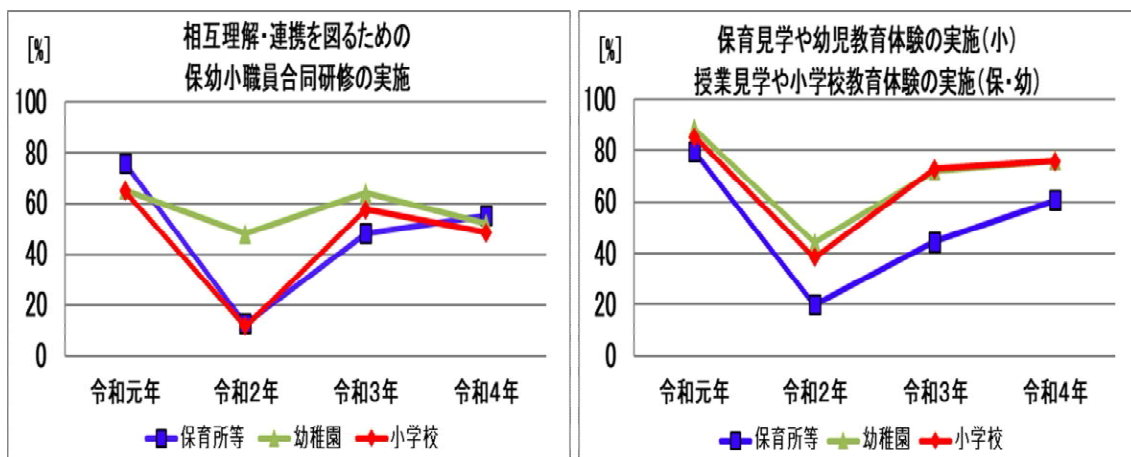
年度当初の担当者連絡会及び交流に関する事前・事後の協議・検証の実施については、令和2年度は「できなかった」「十分にできなかった」の数値の合計が、全体の60%を超えた。対面での実施はできにくかったものの、電話やFAX、メール等の代替手段により、綿密に情報交換を行った事例があった。令和3年度以降は回復傾向にあるが、引き続き実施方法を工夫したり、対面で行う際も時間を制限する等、効率化が図られている。

交流活動を実施した際、事前の協議は行ったが、時間の確保の難しさや周知が不十分だったため事後の検証はできなかったとする事例が多数あった。一方、FAX等の紙面によって検証を図ったり、交流活動当日に振り返る会を実施したりする等、今後の参考になる事例もあった。厳しい条件の中ではあったが、回復傾向にある交流活動の実施が可能になったのも、前年度の課題をもとに交流活動の年間計画を立て、見直しをもって取り組もうと各所・園・校で継続してきたことの成果だと考える。また、交流活動の内容は、ビデオレター・手紙のほか、短時間での授業見学・保育体験・休み時間の遊び等、前例に捉われない工夫が見られたことは、保幼小職員の熱意の現れである。

交流活動を行うことによって、幼児は、期待や憧れ、安心感や親近感をもって小学校へ入学するようになり、児童は幼児に頼られる経験を通して自己有用感を高めるとともに、思いやりの心を育む機会となる。保幼小職員にとっても就学までに経験させておきたい内容を再確認できたという意見もあった。

一方、交流活動に参加する保幼小職員が、そのねらいの共通理解ができていないという意見もあった。また、コロナ禍前に実施していた交流活動等の内容が、所・園・校内体制の変化もあり、うまく引き継がれていない状況もあった。このことから、今後は互恵性のある活動にするためにも、活動のねらいや目的の明確化・焦点化とともに、活動の計画・実施にあたっては、保幼小職員がより一層の共通理解を図りながら進めていくことが大切であると考えます。

(2) 保育士等・幼稚園の教職員と小学校の教職員の連携に関すること



【成果】

- 保育、幼児教育、小学校教育に対する相互理解の深まり
- 就学後の生活への見通しの認識
- 行事や他の研修に合わせた合同研修会の設定

【課題】

- 全教職員が研修、体験、交流に参加できる仕組みづくり

【考察】

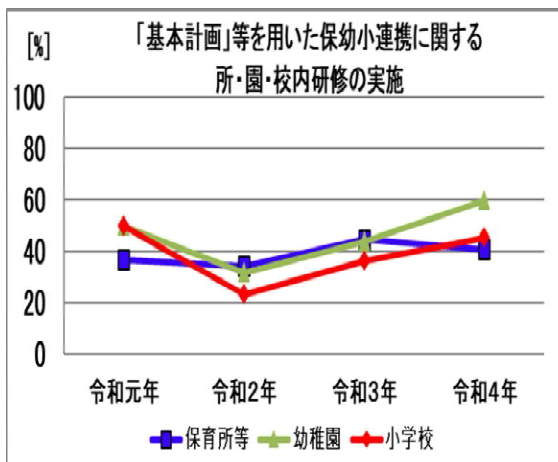
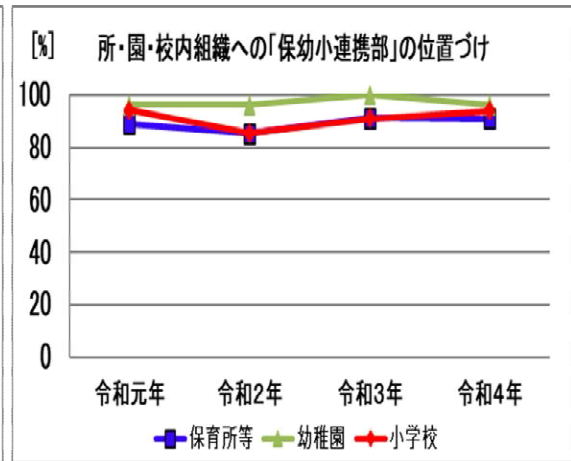
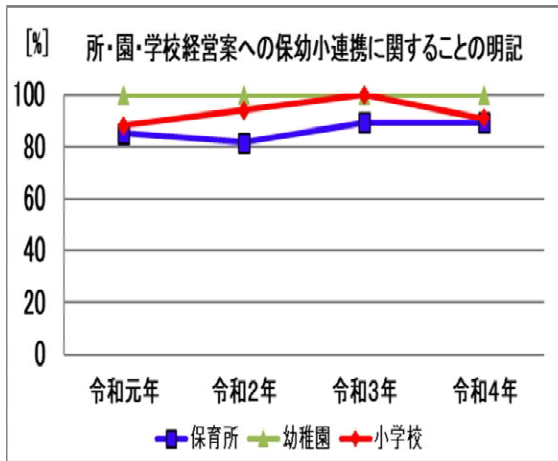
保幼小職員合同研修の実施については、令和2年度は「できなかった」「十分にできなかった」の数値の合計が、全体の80%近くを示した。中止が大半を占めたが、実施された場合は、対面以外に、DVD作成によるものであったり、Webを利用したり、中学校区での連携の会を活用したりする等、今後の開催の在り方の参考になるような工夫が見られた。合同研修について、「不安なく小学校に移行できるよう、保幼小職員で学びと育ちについての共通理解を図ることができた。」

「校区で統一した目標を決めて取り組むことができた。」等の意見があり、実施により相互理解が深まったと言える。

保育見学や幼児教育体験、授業見学や小学校教育体験の実施率については、令和4年度は、60%から80%程度であったが、限られた者の交流にとどまっている感がある。そのような中でも、実施した事例としては、小学校の管理職や特別支援教育コーディネーター等のみが各所・園へ出向く形式や、初任者や中堅教諭の研修を兼ねて幼児教育体験とする等、人数を制限して訪問の機会を設定したり、小学校の学習公開日に保幼小職員が授業見学を訪れたりする等の報告があった。行事や研修等の機会を見学や体験の場とすることで、日程調整や計画の立案等の負担軽減の観点から、実施にあたって今後の参考になると思われる。

保幼小職員合同研修、保育見学や幼児教育体験、授業見学や小学校教育体験の実施率は、全体として年度を重ねるごとにコロナ禍前の状況へ回復傾向にある。保幼小職員が実際に保育体験や授業に参加することで、相互理解の醸成とともに、見通しをもった保育・教育や交流の実施につなげることができる。このことから、今後は全教職員が参加できる研修、体験、交流の機会創出や仕組みづくりが重要である。

(3) 所・園・校内の協力体制に関すること



【成果】

- 連携の意義や重要性について所・園・校内での共通理解
- 所・園・校内組織への「保幼小連携部」の位置づけによる協力体制の確立

【課題】

- 「基本計画」等を用いた、全教職員による所・園・校内研修の実施

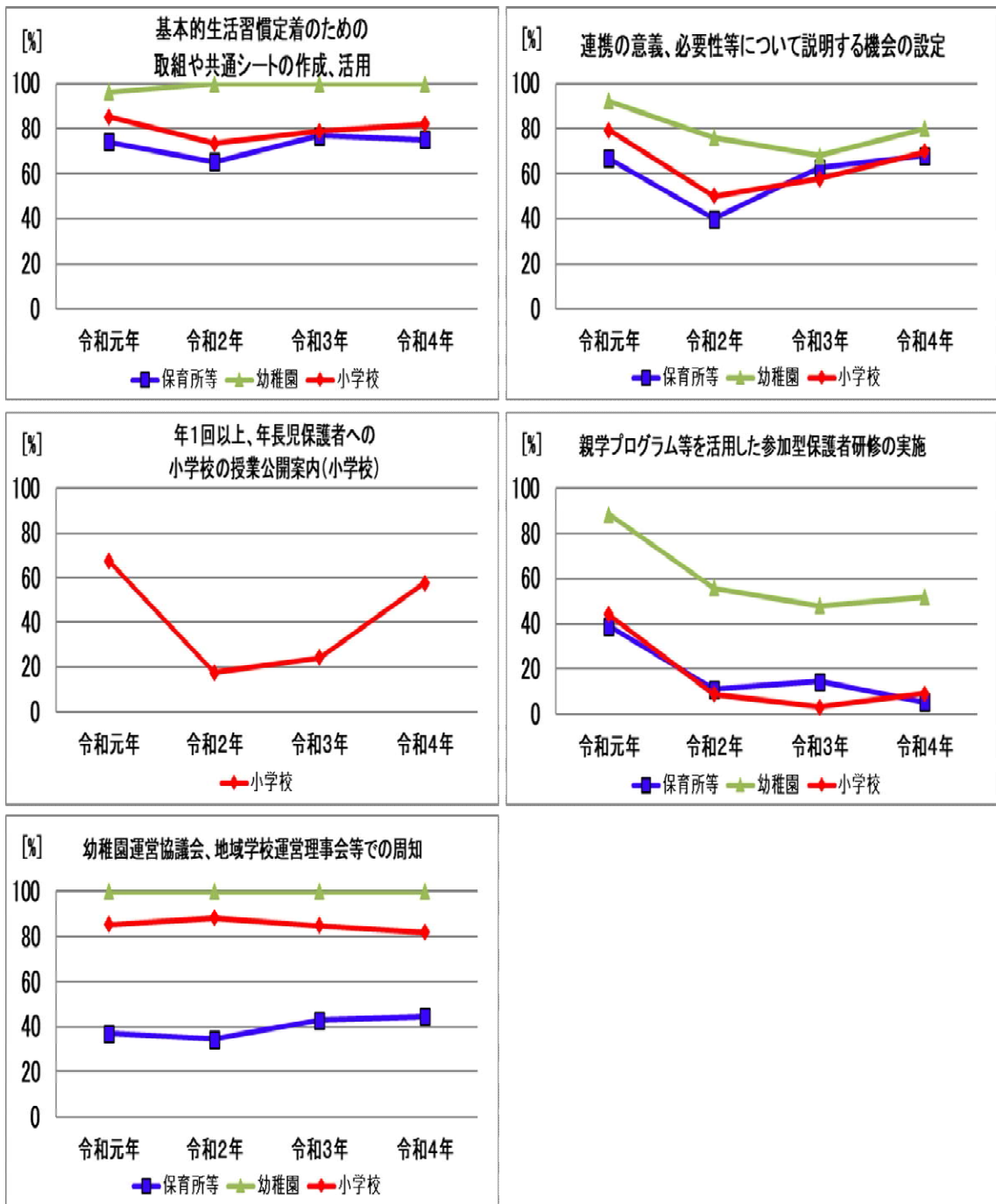
【考察】

「経営案への連携に関することの明記」「所・園・校内組織への『保幼小連携部』の位置づけ」については、90%以上が実施されている。多くの所・園・校で組織的な協力体制が整ってきており、連携の意義や重要性についての理解は図られているといえる。

しかし、「基本計画」を用いた研修については、令和元年度と令和4年度を比較すると、ほぼ横ばいで、所・校においての実施率は40%程度にとどまっている。保幼小連携担当者による話し合いや研修は計画的に実施されるようになってきたが、所・園・校とも全職員で研修していくことが今後の課題であり、年間計画のもと実施できるよう呼び掛けていく必要がある。

今後、「第3期計画」を全教職員に周知したり、「第3期計画ダイジェスト版リーフレット」を所・園・校内研修会等で活用したりすることが大切である。担当者のみならず、所・園・校の全教職員が保幼小連携の目的や意義を理解することが、幼児期から児童期への円滑な接続につながっていくと思われる。

(4) 保護者や地域への啓発活動に関すること



【成果】

- 基本的な生活習慣定着のための共通シートの作成・活用等による理解促進
- 保護者や地域への説明、情報発信の工夫や充実

【課題】

- 親学プログラム等を活用した参加型研修の実施

【考察】

「基本的な生活習慣定着のための取組や共通シートの作成、活用」については、「中学校区で一貫した取組を行うことで保護者の気づきが生じた」「きょうだいで同時期に取り組むことで、子ども自身が意識して生活したり、家族で生活習慣

を見直したりすることに繋がった」「幼小共通シートを作り、幼小同時に取り組むことで生活習慣の定着を目指している」等、実践を通した効果が見られた。

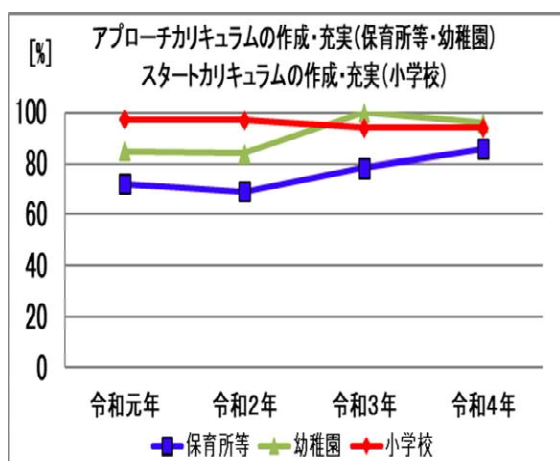
「連携の意義、必要性等について説明する機会の設定」において、保護者会等での説明や所・園・校便り、地域への広報誌を活用し、啓発を図っている。今後は、ホームページやブログ等の利用による情報発信や周知を進めていく必要がある。

「参加型の保護者研修の実施」については、コロナ禍においては、参加型が難しい中、感染対策を講じたうえで、分散型の開催や広い会場の利用、DVD配付等の工夫した形での研修の実施も見られた。

参加型保護者研修は、有効なものではあるが実施率が低いことから、「メディアの影響」や「親子で楽しむ運動遊び」「食育」「子どもへの褒め方や叱り方」等、保護者としての役割や子どもとのかかわり方についての気づきを促すとともに、保護者のニーズや課題に応じた研修を今後も実施していくことが必要である。

今後、小学校においては、年長児の保護者への授業公開への案内、幼稚園、保育所等においては、幼稚園運営協議会や理事会等を活用した保幼小連携推進の取組紹介や情報交換が進められるとよいと考える。

(5) 接続期のカリキュラムに関すること



【成果】

- ほぼ全ての所・園・校におけるアプローチカリキュラム、スタートカリキュラムの作成
- 各カリキュラム活用による保幼小連携の取組の推進

【課題】

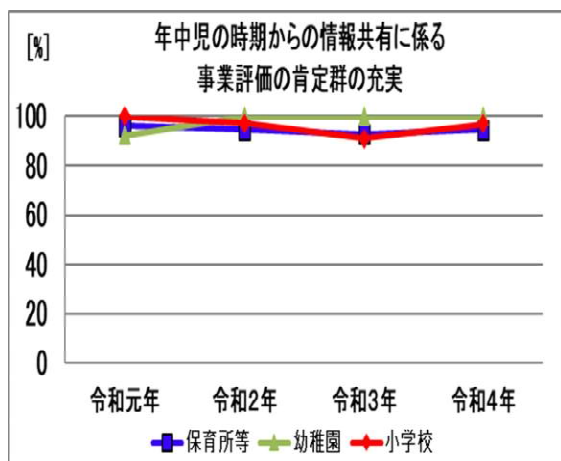
- 保幼小職員が連携した各カリキュラムの検証と見直しの実施

【考察】

第2期計画において、ほぼ全ての所・園・校で各カリキュラムの作成が行われた。コロナ禍により保幼小職員同士の交流や情報共有の機会が確保しにくかったにもかかわらず、それぞれの所・園・校で可能な限りの連携が行われていた。第3期計画では、各カリキュラムの実施が有効であったかどうか視点をおいた、保幼小職員での情報共有を図るとともに、PDCAサイクルによる検証を行っていくことが大切である。

グラフでは、幼稚園と小学校が令和3年度から令和4年度にかけて微減となっている。これは、各カリキュラムが作成はされているが、見直しや充実の面での課題があることを表している。また、担当職員の入れ替わりがあった場合においても、各所・園・校のカリキュラムの目的や内容について確認や共通理解を図る必要がある。

(6) 年中児の時期からの情報共有に関すること



【成果】

- 保幼小職員による年中児情報の共有
- 小学校の新入生受入れ準備の充実

【課題】

- 幼児情報の有益な共有

【考察】

本取組は、年中児保護者が子どもの生活状況や入学予定校等を記入した「そだちの応援シート」（※様式7 以下、「応援シート」という）をもとに、幼児の円滑な就学のために、保幼小職員が年中児の時期から幼児の情報共有をするものである。また、応援シートを介して保護者への相談機会の提供を行う「年中児発達相談事業」を実施することで、幼児期から児童期への円滑な接続と成長段階に応じた切れ目のない支援の相乗効果が期待される。

事業評価では所・園・校とも90%以上が肯定的な評価をしており成果があがっている。保育所等・幼稚園からは「年中児の時期からの子どもの様子や保護者の心配ごとや相談したいことが把握でき、有効に活用している。」「小学校との連携がスムーズになった。」小学校からは「早期に情報共有することで見通しをもって就学に向けた準備ができる。」などの意見が多くあった。

今後も本事業の継続を図りつつ、所・園・校間で、子どもの見取りの視点や必要な情報の擦り合わせを行いながら、共有した情報をより有効に活用していくことが大切である。

3 保護者の意識

令和6年度に小学校入学を迎える出雲市内保育所等、幼稚園の年長児の保護者（令和5年7月1日時点の年長児数1468名、回答数699名）に対し、令和5年7月に以下の内容について「保幼小連携に係る保護者アンケート」を実施した。

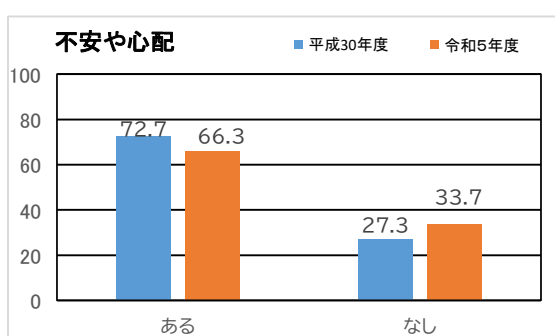
アンケート内容

- (1) 小学校入学に際しての不安や心配の状況
- (2) 所・園・校に対する要望事項
- (3) 保護者としてすべきこと、子どもに身につけさせたいこと

結果は以下のとおりである。

(1) 小学校入学に際しての不安や心配の状況

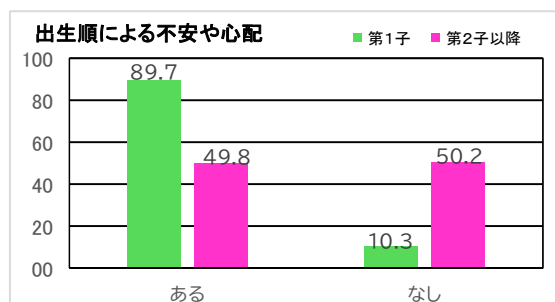
① 小学校入学についての不安や心配の有無



[%]

不安や心配が「ある」と答えた保護者は、平成30年度調査72.7%、令和5年度調査66.3%で微減となっているものの、依然としてその割合は高くなっている。

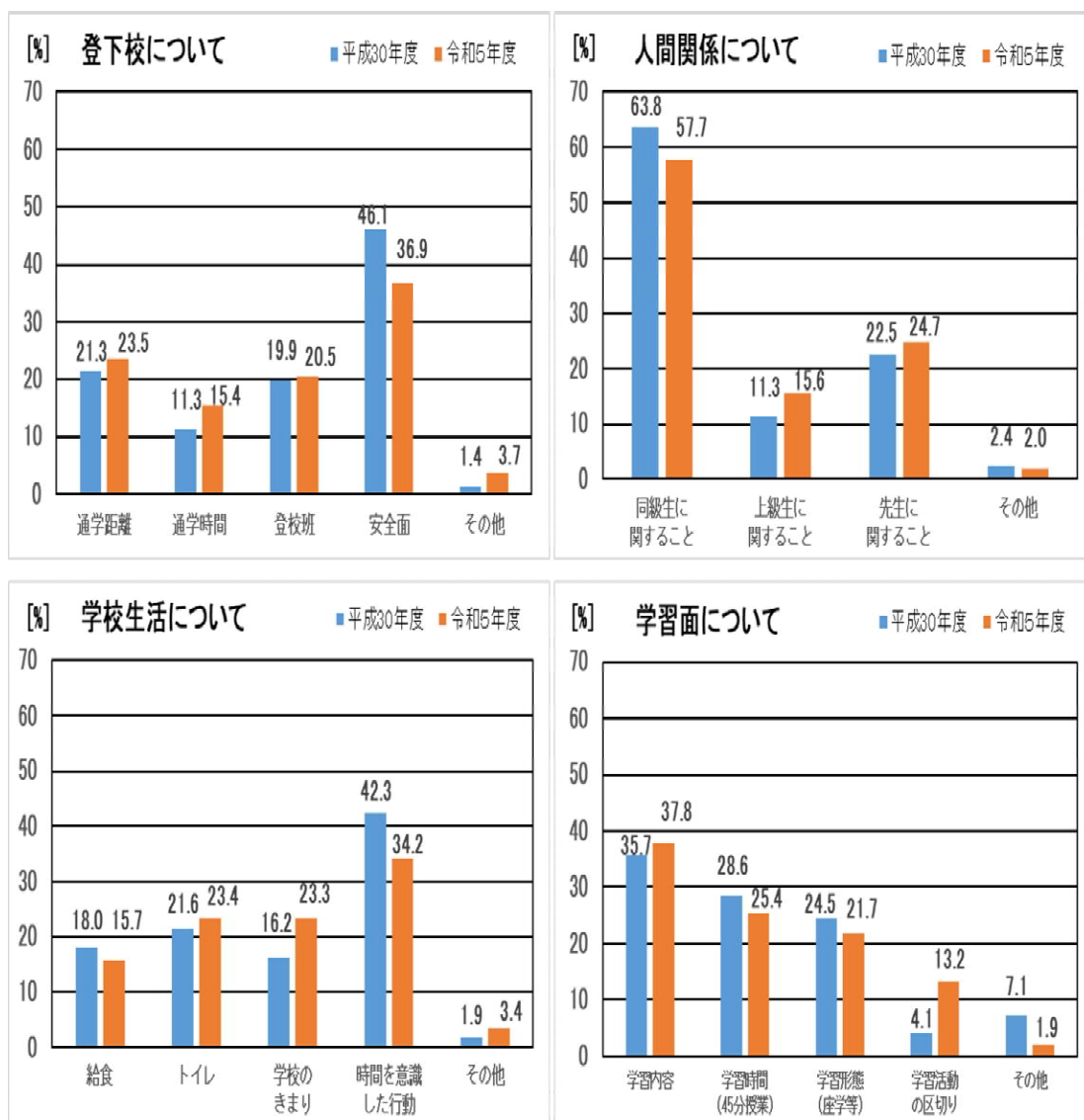
② 第1子と第2子以降の不安や心配の有無



[%]

不安や心配が「ある」と答えた保護者の割合は、第1子が89.7%と第2子以降より高い。初めて就学を迎える子どもをもつ保護者の多くが何らかの不安や心配を抱えていることが分かる。

③ 不安や心配な内容 ※回答は複数選択



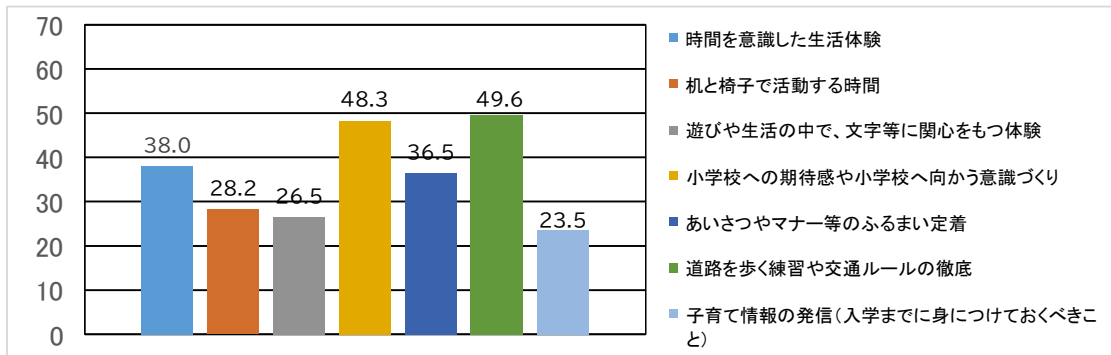
小学校入学について不安や心配が「ある」と回答した保護者は、どんなことに不安や心配があるのかについての内訳である。

平成30年度調査と令和5年度調査の比較では、全体的な傾向として、変化は見られない。

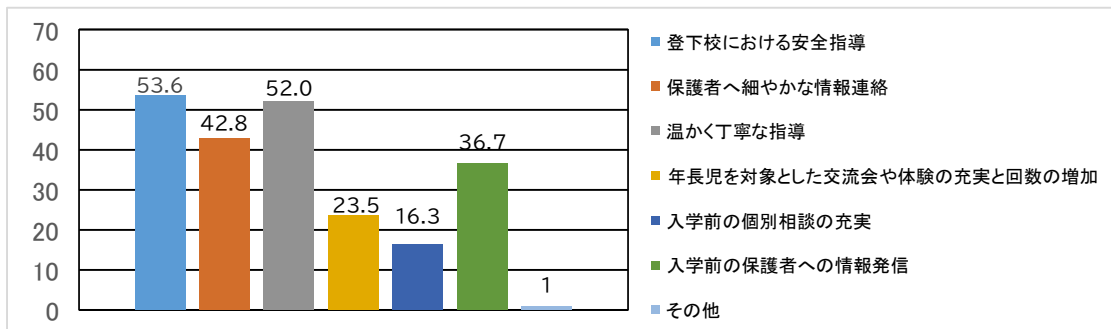
『登下校』では「安全面」、『人間関係』では「同級生に関すること」、『学校生活』では「時間を意識した行動」、『学習面』では「学習内容」が最も高くなっている。

(2) 所・園・校に対する要望事項 ※回答は複数選択

① 保育所等及び幼稚園に対して [%]



② 小学校に対して [%]

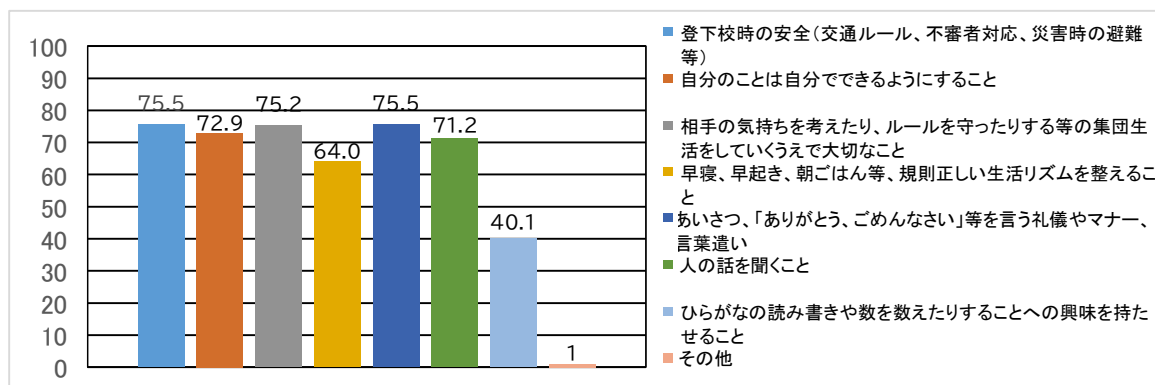


(1)–③の回答結果からも登下校の安全面に不安があることが分かっている。小学校へ入学し、自分で歩いて登下校することが基本となる中で、所・園・校に対しても、「道路を歩く練習や交通ルールの徹底」「登下校における安全指導」の要望が高くなっている。

また、「小学校への期待感や小学校へ向かう意識づくり」についても、要望の割合が高く、保育所等及び幼稚園だけではなく、小学校と連携した取組が必要と考えられる。

そうしたことから、保護者が小学校での生活や学習、安全対策等について理解し、見通しをもち、親子で喜びや期待感をもって安心して入学を迎えることができるよう、配慮する必要がある。所・園・校が様々な機会を利用し、幼児教育と小学校教育の内容や連続性、また環境の変化、安全対策の方針等についてわかりやすく伝えることが保護者支援につながると考える。また、このような保護者の意見や考えを、所・園・校側が共有し、それについての支援や対策を保護者とともに確立する等双方向の取組を行うことが大切である。

(3) 保護者としてすべきこと、子どもに身につけさせたいこと ※回答は複数選択
[%]



このように、保護者が身につけさせたいと感じている項目について、所・園・校のそれぞれが認識を深めたうえで、保護者と連携を図り、ともに育成していくことが大切である。そのためにも、保護者・地域・所・園・校・行政・関係機関が1つのチームとなって社会に開かれた学校づくりを推進し、交流活動、相互見学、合同研修会の開催等により相互の意見が子どもの発達や育成に結びつくよう継続していくことが重要である。

4 期待される姿

「現状及び成果と課題」及び「幼保小の架け橋プログラム」（令和4年4月 文部科学省）を踏まえ、保幼小連携における『期待される姿』を以下のとおりとする。

期待される姿

所・園・校

- 保幼小連携を通して社会に開かれた学校づくりを推進し、所・園・校の活性化を図ることで、幼児教育・小学校教育の質を高める。

幼児

- 児童と交流したり小学校生活にふれたりすることで、入学時の不安や戸惑いを軽減し、小学校への親しみや期待感、憧憬心を高めて小学校生活へ滑らかに移行する。

児童

- 幼児とふれあうことで、自らの成長を実感するとともに、思いやりの心や自分を表現する力等、人と関わる力を伸ばす。また、自己有用感が高まり、学びの姿勢によりよい影響を与えるとともに、お互いに認め合う雰囲気の中で、確かな学力を身に付ける。

保幼小職員

- 相互見学や所・園・校内研修及び保幼小職員合同研修会等により、互いの保育・教育の違いや幼児・児童の発達、学びのとらえ方への理解等の意識改革を図り、保幼小職員としての資質を高める。

保護者

- 所・園・校からの啓発活動により、不安や心配を軽減し、喜びや安心感、期待感をもって子どもの入学への準備を整える。また、基本的な生活習慣の確立や人とかかわる力、学びに向かう力の育成等についての自覚や責任をもつことで、家庭での教育力を高める。

地域

- 幼児・児童の学びの支援や見守り等、保育・教育に関わることにより、幼児・児童の豊かな成長の支えとなるとともに、地域の教育力を高める。

5 保幼小連携の充実に向けた方策

本市では、第2期計画の成果や課題及び「幼保小の架け橋プログラム」（令和4年4月文部科学省）を踏まえ、市内全ての所・園・校において保幼小連携の充実を図るため、『期待される姿』をめざし、次のとおり推進する。

なお、本方策に基づく取組期間を、令和6年4月から令和11年3月までの5年間とする。また、「保幼小連携チェックシート」（様式3）により、毎年度1年間の取組を評価し、改善につなげる。

(1) 幼児と児童の交流に関すること

① 『保幼小交流の日』の設定

実施日	10月第3火曜日
対象	児童、年長児とその保護者
会場	就学予定の小学校
内容	年長児と児童の交流及び保護者の学校理解の促進
その他	「交流計画書」（様式1）の活用

② 交流活動の年間計画への位置づけ

「出雲市保幼小連携年間計画」（様式2）及び「小学校と幼稚園・保育所等との交流が可能な活動例（年間計画用参考資料）」を活用する。

③ 互恵性を意識した質の高い交流 【重点方策】

交流を進めるにあたり、所・園・校それぞれの保育・教育のねらいを達成できるよう、以下のことに留意する。

流れ	留意点
1 事前の話し合い	交流をすることによって、 <u>幼児と児童に育つものは何か、その時間にどのような学びがあるのか</u> という双方のねらいを互いに理解する。 (計画書のやりとりだけでなく、ねらいを互いにきちんと伝え合う。)
2 保幼小職員による幼児・児童への協働的な関わり	交流活動中は保幼小職員同士も交流する。 (幼児・児童の様子を異なる校種の者が見て話題にすることで、子どもの見方や指導・支援の在り方の相違点の理解につなげる。)
3 事後の話し合い及び記録の保存	実施した交流活動について話し合う機会をもつ。 (活動内容や幼児・児童の様子について時間を設けて話し合い、その記録を保存することで、次の活動及び次年度に生かす。)

(2) 保育士等・幼稚園の教職員と小学校の教職員の連携に関すること

① 保幼小職員合同研修会の開催

保幼小職員としての資質向上及び相互理解・連携の機会となる研修会を継続して開催する。

② 保育、授業の相互見学及び保育、授業研究会への参加【重点方策】

保育所等・幼稚園の教職員が、新入生の小学校での様子を観察できるように、小学校はその機会を創出する。

保幼小の全教職員が相互見学を行い、見学前後に幼児・児童の見方や教材、指導方法について話し合う機会をもつことで、幼児・児童の育ちや学びのつながりについての理解を深める。

③ 小学校教育体験・幼児教育体験の実施【重点方策】

小学校の教職員による幼児教育体験や保育士等・幼稚園の教職員による小学校教育体験を実施する。長期休業等の利用や短時間での体験等、実施の方法を工夫して全教職員が経験することにより、連携の基盤づくりを進める。

(3) 所・園・校内の協力体制に関すること

① 保幼小連携担当者、副担当者の指名、報告

② 所・園・校経営案等に保幼小連携に関することの明記

③ 所・園・校内組織に「保幼小連携部」の位置づけ

④ 本基本計画等を用いた保幼小連携に関する研修の研修計画への位置づけと実施

⑤ 所・園・校内職員研修等における保幼小職員合同研修会の内容の共通理解

(4) 保護者や地域への啓発活動に関すること

① 「第3期保幼小連携推進基本計画ダイジェスト版リーフレット」(仮称)の作成

市内すべての保育所等・幼稚園の年長児の保護者、各所・園・校、地域学校運営理事会理事等に配付する。

② 基本的な生活習慣定着のための保幼小共通シートの作成、活用

保幼小をベースとしながら、中学校区で取り組んでいくことが望ましい。

③ 連携の意義、必要性等について説明する機会の設定

④ 年1回以上、年長児保護者への小学校の授業公開案内(小学校)

⑤ 親学プログラム等を活用した参加型研修の工夫(P T A活動、学級・学年懇談等の機会の活用)

⑥ 幼稚園運営協議会、地域学校運営理事会等での周知

(5) 架け橋期のカリキュラム・接続期のカリキュラムに関すること【重点方策】

① 架け橋期のカリキュラムの作成及び評価・改善と接続期のカリキュラムの見直し

架け橋期(5歳児から小学校1年生の2年間)の教育の充実を図り、生涯に渡る学びや生活の基盤をつくとともに、幼児教育施設から小学校への円滑な接続を図るため、保幼小が協働して架け橋期のカリキュラム(様式4)を小学校区(中学校区)ごとに策定する(令和9年度末までに作成)。また、この策定を受け、接続期のカリキュラム(アプローチカリキュラム例とスタートカリキュラム例を参照)

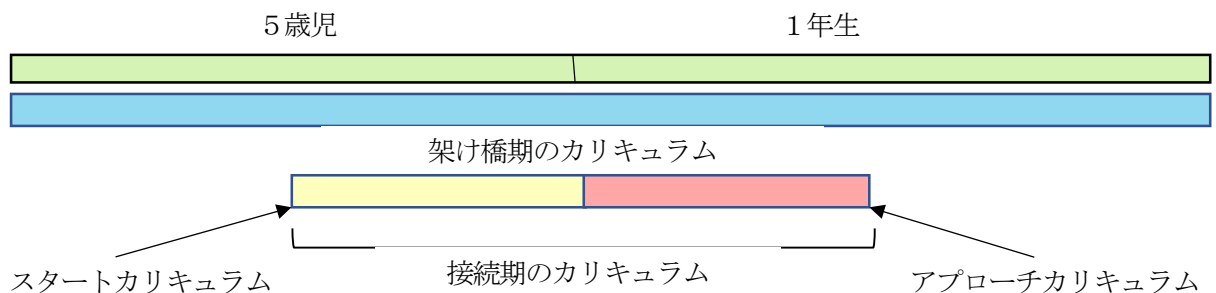
の見直しを図るとともに、いずれのカリキュラムも、実践しながら成果や課題を明らかにする等、PDCAサイクルで評価・改善していく。

○架け橋期のカリキュラム…5歳児1年間から小学校1年生の2年間が対象

○接続期のカリキュラム …アプローチカリキュラムとスタートカリキュラムのこと

○アプローチカリキュラム…年長児後半（10月から3月）が対象

○スタートカリキュラム …1年生前半（4月から9月）が対象



② めあてと振り返りを意識した活動・学習の推進（新規）

保育所等・幼稚園では、幼児がめあてをもって活動に取り組み、活動後には、自分の気持ちをことばで振り返りができるようにする。小学校では、児童がめあてを意識して学習に取り組み、自分のことばで発表したり記述したりするなど、まとめや振り返りができるようにする。

③ 重点的に取り組むテーマの設定（新規）

年度ごとに、小学校区（中学校区）における保幼小連携に係る共通の「重点テーマ」を設定し取り組むことにより充実を図る。

(6) 年中児の時期からの情報共有に関すること

年中児保護者が記入した応援シートを介して、保幼小職員が年中児の時期から幼児の情報を共有し、相互理解を深めながら幼児の円滑な就学に向けて取り組む。

また、小学校は保育所等や幼稚園から得た幼児の情報を基に、新入生に適した環境を整え、新入生の受入れ準備の充実を図る。

(様式1)

交 流 計 画 書

●活動名

保育所等名
幼稚園 名
小学校 名

担当者
担当者
担当者

●日時 年 月 日 ()

●共通の活動のねらい

●幼児の活動のねらい

●児童の活動のねらい

●連絡会の打合せのポイント

●事前指導

幼児

児童

●交流の概要

●交流の流れ

時程	幼児への支援等	幼児・児童の活動	児童への支援等

●事後指導

幼児

児童

●検証（次の活動、次年度の活動に生かす）

(様式2) ()年度 出雲市保幼小連携年間計画 【交流番号】(場所) ()保育所・認定こども園・幼稚園・小学校

		(例)〇月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
幼児・児童の交流	〇〇 小学校	一年													
		その他													
	〇〇 幼稚園	年長													
		その他													
	〇〇 幼稚園	年長													
		その他													
	〇〇 保育所	年長													
		その他													
	〇〇 保育所	年長													
		その他													
	保育士等・幼稚園の教職員と小学校の教職員との連携														
	所・園・校内の協力体制														
保護者や地域への啓発															

第3期出雲市保幼小連携推進基本計画に基づく「保幼小連携チェックシート」

記載日 年 月 日

所・園・校名() 記載者()

評価：該当する番号を記入【1.できた 2.ややできた 3.どちらかといえればできなかった 4.できなかった】

	項 目	評 価	できなかつた理由（※ 簡潔に記入）
1	年度当初の担当者連絡会の実施		
2	交流に関する事前・事後の協議・検証の実施		
3	ねらいを明確にした互恵性のある活動の実施 【重点方策】		
4	相互理解・連携を図るための保幼小職員合同研修の実施(市主催の合同研修会は除く)		
5	小学校教職員による、保育見学や幼児教育体験の実施(小学校) 【重点方策】		
6	保育士等・幼稚園教職員による、授業見学や小学校教育体験の実施(保育所等・幼稚園) 【重点方策】		
7	所・園・校経営案への保幼小連携に関するこの明記		
8	所・園・校内組織への「保幼小連携部」の位置づけ		
9	「第3期出雲市保幼小連携推進基本計画」等を用いた保幼小連携に関する所・園・校内研修の実施		
10	保幼小で基本的な生活習慣定着のための取組や共通シートの作成、活用		
11	連携の意義、必要性等について説明する機会の設定		
12	年1回以上、年長児保護者への小学校の授業公開案内(小学校)		
13	親学プログラム等を活用した参加型保護者研修の実施		
14	幼稚園運営協議会、地域学校運営理事会等での周知		
15	アプローチカリキュラムの作成及び評価・改善(保育所等・幼稚園) 【重点方策】		
16	スタートカリキュラムの作成及び評価・改善(小学校) 【重点方策】		
17	めあてと振り返りを意識した活動・学習の推進 【重点方策】		
18	重点的に取り組むテーマの設定 【重点方策】		
19	年中児の時期からの情報共有の充実		

接続期の育ちのつながり(キーワード・ねらいと主な内容)

スタート期	
自分なりに(自分たちで)見通しをもって生活する	新しい環境に適切して生活する
<p>A</p> <p>健康な心と体</p> <p>①自分のしたいことを見つけてすすんで遊ぶ。運動遊びを楽しむ。 ②生活のきまり、遊具の使い方、交通ルールを分かり、守ろうとする。 ③自分のことは自分でしようとする。(衣服の着脱・持ち物の始末、排泄等) ④遊びや活動の仕方を考え、見通しをもって行動する。 ⑤マナーを守って楽しく食べる。 ⑥良い姿勢で話を聞く。 ⑦当番の仕事や遊びの準備、片付けをする。 ⑧安心感をもって生活する。</p>	<p>①すすんで遊ぶ。めあてをもって運動や体力づくりをする。 ②学校のきまりを知り、安全に気をつけて生活する。交通ルールを守り、安全に登下校する。 ③自分のことは自分でする。(着替え、持ち物の始末、片付け) ④遊びや活動の手順を理解し、見通しを持って参加する。 ⑤マナーを守って楽しく給食を食べる。 ⑥良い姿勢で椅子にすわって学習する。 ⑦当番や係の仕事や係の仕事を友達と協力してする。</p>
<p>B</p> <p>友だちや先生と一緒に遊び、生活する</p> <p>①自分から挨拶をし、言葉で伝えることの心地よさを味わう。(おはよう・ありがとう等) ②しても良いこととしてはいけないことがわかる。 ③友達と考えを出し合い、工夫して活動する。 ④友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じ、つながりを感じながら遊ぶ。 ⑤互いに思いや考えを伝え合い、受け止め合いながら遊ぶ。 ⑥友達よさを認める。 ⑦身近な人に親しみをもち、触れ合いを楽しむ。</p>	<p>身近な人と関わり合いながら思いを伝え合い、人間関係を育む</p> <p>①自分から進んで挨拶をして人と関わろうとする。 ②ルールやマナーを守り、人のことを考えて行動する。 ③友達と考えを出し合い、自分の考えに生かす。工夫して活動する。 ④友達と楽しく活動し、つながりを感じる。お互いに助け合うことの良さに気づく。 ⑤互いに思いや考えを相手にわかりやすく話そうとする。相手の話を最後まで聞く。 ⑥自分の思いや考えを相談したり自分たちで解決したりしようとする。 ⑦友達の良さを認める。自分の良さに気づく。 ⑧地域の人や上級生と進んで関わろうとする。</p>
<p>C</p> <p>身近な人、もの、ことに興味や関心をもってかかわり、考えたり試したり工夫したりして遊ぶ</p> <p>①季節の変化、自然の不思議さ、美しさや気付き、遊びに取り入れる。 ②身近な動植物に愛情(愛着)をもち、大切に扱おうとする。 ③伝統的な行事を体験し、日本や地域の文化に親しむ。 ④絵本や物語、紙芝居を見たり聞いたりして想像する楽しさを味わう。 ⑤友達とイメージを共有しながら、表現したり、演じたりする。 ⑥様々な遊びの中にあきらめずに挑戦する。 ⑦様々な遊びの中で、数量や図形、文字などに触れ、親しみをもつ。 ⑧体験を通して好奇心や探究心をもち、工夫しながら遊ぶ。 ⑨共通のめあてに向かって、友達と協力して取り組む。 ⑩自分なりのめあてをもち、試行錯誤しながら遊びを続ける。</p>	<p>教科学習等の基礎となる興味、関心や意欲、能力を培う</p> <p>①自然の変化や美しさや学ぼうとする意欲をもち、学習活動に進んで取り組む。 ②動植物について学ぼうとする意欲をもち、学習活動に進んで取り組む。 ③日本や地域の行事・文化について学ぼうとする意欲をもち、学習活動に進んで取り組む。 ④物語を読んだり、聞いたりして、場面を豊かに想像する。 ⑤自分の体験したこと、感じたことを伸び伸びと表現し、伝えようとする。 ⑥新しいことにも意欲をもち、挑戦しようとする。 ⑦平仮名を正しく読んだり、書いたりしようとする。10までの数について、書き方や読み方、その意味や大小について経験をもとに考えようとする。 ⑧学ぼうとする意欲をもち、体験活動に進んで取り組む。 ⑨めあてに向かって友達と協力して取り組む。</p>

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されている「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」及び小学校学習指導要領を参考に作成

(参考)

幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

(1)健康な心と体

園生活の中で、充実感をもって自分のやりたいことに向かって心と体を十分に働かせ、見通しをもって行動し、自ら健康で安全な生活をつくり出すようになる。

(2)自立心

身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる。

(3)協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる。

(4)道徳性・規範意識の芽生え

友達と様々な体験を重ねる中で、してよいことや悪いことが分かり、自分の行動を振り返ったり、友達の気持ちに共感したりし、相手の立場に立って行動するようになる。また、きまりを守る必要性が分かり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、きまりをつくったり、守ったりするようになる。

(5)社会生活との関わり

家族を大切にしようとする気持ちをもつとともに、地域の身近な人と触れ合う中で、人との様々な関わり方に気付き、相手の気持ちを考えて関わり、自分が役に立つ喜びを感じ、地域に親しみをもつようになる。また、園内外の様々な環境に関わる中で、遊びや生活に必要な情報を取り入れ、情報に基づき判断したり、情報を伝え合ったり活用したりするなど、情報を役立てながら活動するようになるとともに、公共の施設を大切に利用するなどして、社会とのつながりなどを意識するようになる。

(6)思考力の芽生え

身近な事象に積極的に関わる中で、物の性質や仕組みなどを感じ取ったり、気付いたりし、考えたり、予想したり、工夫したりするなど、多様な関わりを楽しむようになる。また、友達の様々な考えに触れる中で、自分と異なる考えがあることに気付き、自ら判断したり、考え直したりするなど、新しい考えを生み出す喜びを味わいながら、自分の考えをよりよいものにするようになる。

(7)自然との関わり・生命尊重

自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、好奇心や探究心をもって考え言葉などで表現しながら、身近な事象への関心が高まるとともに、自然への愛情や畏敬の念をもつようになる。また、身近な動植物に心を動かされる中で、生命の不思議さや尊さに気付き、身近な動植物への接し方を考え、命あるものとしていたわり、大切に作る気持ちをもって関わるようになる。

(8)数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

遊びや生活の中で、数量や図形、標識や文字などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、自らの必要感に基づきこれらを活用し、興味や関心、感覚をもつようになる。

(9)言葉による伝え合い

先生や友達と心を通わせる中で、絵本や物語などに親しみながら、豊かな言葉や表現を身に付け、経験したことや考えたことなどを言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを楽しむようになる。

(10)豊かな感性と表現

心を動かす出来事などに触れ感性を働かせる中で、様々な素材の特徴や表現の仕方などに気付き、感じたことや考えたことを自分で表現したり、友達同士で表現する過程を楽しんだりし、表現する喜びを味わい、意欲をもつようになる。

架け橋期にめざす子どもの姿		年長児（5歳児）												小学校1年生（6歳児）											
		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
遊びや学びのねらい (資質・能力)	A 遊 び や 学 び の ね ら い (資 質 ・ 能 力)	<p>出雲市キャリア教育系「小学校入学に向けてつきたい力」</p> <p>自分の健康や安全に気をつけながら、自分のやりたいことを見つめる力</p> <p>友だちと共通の目的を見出し工夫したり協力したりする力</p> <p>身近な環境に自分からかわり、発見を頼んだり考えたりしてそれを生活に取り入れようとする力</p>																							
	主な活動・単元と行事	<p>幼児期の終わりまでに育ってほしい姿(項目)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な心と体 ・自立心 ・協同性 ・道徳性・規範意識の芽生え ・社会生活との関りの芽生え ・思考力の芽生え ・自然との関わり・生命尊重 ・数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ・言葉による伝え合い ・豊かな感性と表現 																							
	指導上の配慮事項	<p>・めあてと振り返りを意識した活動を展開する。</p> <p>・めあてと振り返りを意識した学習を展開する。</p>																							
保幼小連携・接続に係る行事等	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	11月	12月	1月	2月	3月	<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">市保幼小 交流の日</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">就学時 健診</div> </div>						
子ども																									
職員等	市合同 研修会																								

あきらめずに、挑戦する子ども

		年長児（5歳児）												小学校1年生（6歳児）											
時期		4	5	6	7	8	9	10	11	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	1	2	3		
遊 び や 学 び の ね （資 質・能 力）	A 健康な心と体①	自分の健康や安全に気をつけながら、自分のやりたいことを見つけて遊ぶ																							
	B 人のかかわり④	身近な人に親しみを持ち、触れ合いを楽しむ																							
	C 遊び・学びの力⑥	様々なことに挑戦しようとする																							
主な活動・単元と行事	春あそび	かけっこ	秋あそび	雪あそび	なわとび	煙づくり	煙取権	春あそび	秋あそび	発表会	お別れ会	春見つけ（生）（国）	学校探検（生）（国）	運動会（体）	春見つけ（生）（国）	学校探検（生）（国）	運動会（体）	秋見つけ（生）（国）	秋祭り（生）（算）	発表会（国）（生）	なわとび（体）	冬見つけ（生）（国）	送る会（音）（生）		
指導上の配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてと振り返りを意識した活動を展開する ・「問い」をもてる環境・状況の工夫 ・クラスの思い・願いから始まる遊びを（下期） ・指示は短く ・意欲や頑張りをしっかり価値づける ・時間を十分に確保する 																								
月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
子ども	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>市保幼小交流の日</p> <p>就学時健診</p> <p>小・運動会への幼児参加</p> </div> <div> <p>公開授業・公開保育</p> <p>保幼・小学校教育体験</p> </div> </div>																								
保幼小連携・継続に係る行事等	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>連絡会</p> <p>市合同研修会</p> <p>小・幼児教育体験</p> </div> <div> <p>交流会</p> <p>連絡会</p> </div> </div>																								

(幼児教育施設名) アプローチカリキュラム

〇〇校区橋期に めざす子どもの姿				
〇〇校区「遊びや学 びのねらい」(資質・ 能力)	A健康な心と体…	B人とのかかわり…	C遊び・学びの力…	
月	10月	11月	12月	1月
主な活動と行事	2月	3月		
育ってほしい 子どもの姿				
活動のねらいと内容				
小学校との連携				

(様式5-2)

(幼児教育施設名) アプローチカリキュラム

○○校区架け橋期に めざす子どもの姿					
○○校区「遊びや学 びのねらい」(資質・ 能力)	A健康な心と体…	B人とのかかわり…	C遊び・学びの力…	10月	11月
月	12月	2月	3月		
主な活動と行事					
育てほしい 子どもの姿					
活動の ねらいと 内容	A健康な 心と体	B人との かかわり	C遊び・ 学びの力		
小学校との連携					

例示1(A、B、Cに分けにくい場合)

〇〇幼稚園 アブローチカリキュラム

赤字は必ず入れる内容

架け橋期のカリキュラム「遊びや学びのねらい(資質・能力)」の年長児下半期の部分を記載する。

<p>〇〇校区架け橋期にめざす子どもの姿</p> <p>〇〇校区「遊びや学びのねらい」(資質・能力)</p>	<p>A健康な心と体…遊びや活動の仕方を友だちと一緒に考える B人とのかかわり…友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じ、つながりを大切にしながら遊ぶ C遊び・学びの力…自分なりのめあてをもち、あきらめずに挑戦する</p>
<p>主な活動と行事</p> <p>育ってほしい子どもの姿</p>	<p>10月 ・稲刈り ・おも掘り</p> <p>11月 ・お土産さんごっこ ・運動会 ・収穫祭</p> <p>12月 ・公園探検(秋見つけ) ・生活発表会 ・小学校授業見学</p> <p>1月 ・なわとび ・昔からの遊びを楽しもう</p> <p>2月 ・まめまきをしよう ・お別れ会</p> <p>3月 ・卒園式</p> <p>園のリーダーとしていろいろな行事を引っ張っていくことに充実感や達成感を感じる</p> <p>友だちと一緒に協力し、工夫したり試したり挑戦したりしながら遊びを続ける</p> <p>集団で遊ぶことや、難しいことに挑戦してがんばることへの楽しさを感じて遊ぶ</p> <p>就学を楽しみにし、けじめのある行動を意識して生活する。</p>
<p>架け橋期のカリキュラム「主な活動・単元と行事」に記載したものは必ず入れる</p> <p>活動のねらいと内容</p>	<p>◎自分なりに(自分たちで)見通しをもって生活する。【A健康な心と体】</p> <p>《リズムよく日常生活を過ごす》→基本的生活習慣 ○見通しをもって活動するともに、進んで生活習慣や生活の中でのまじまじを大切にしようとする。 ○あきらめずに最後まで取り組み、達成感を味わう。(運動会の競技、マーチング、遊戯等) ○毎日の当番活動を友だちと協力しながら最後までする。 ○少しずつ時間を意識して生活する。</p> <p>◎友だちや先生との人間関係を深め、一緒に遊んだり生活したりすることを楽しむ【集団の力】…B人とのかかわり、C遊び・学びの力</p> <p>《園行事のリーダーとして活動する》→やり遂げることによって達成感を味わう ○放送当番、おひさまタイムのリーダー(司会、道具の準備、出発・決勝など)決めて行う。</p> <p>◎身近な人、もの、ことに興味や関心をもって関わり、考えたり試したり工夫したりして遊ぶ【学ぶ力】…B人とのかかわり、C遊び・学びの力</p> <p>《友だちと同じ目的をもって遊び続ける》→互いの意見を伝え合いながら工夫する ○友だちを誘い合い、仲間になって遊ぶ。 ○遊びや活動の中で、相手の必要性に気づき、トラブルが起きても折り合いをつけながら解決しようとする。 ○自分なりにめあてをもって挑戦し、できるよくなる喜びを味わう。 ○人の話を最後まで聞いて、落ち着いて行動する。 ○自分の思いや感じたことを言葉で伝え合う。</p> <p>《異年齢の友だちも一緒に誘い合って遊ぶ》→自分からいろいろな友だちと関わる姿につなぐ ○年下の友だちも自分たちの遊びに誘って遊ぶ。 ○遊びのルールを考えながら一緒に遊ぶ。 ○年下の友だちにやさしくしたり、自分なりに配慮したりしながら遊ぶ。</p>
<p>小学校との連携</p>	<p>・保幼小交流の日 ・就学時健診 ・小学校学習発表会見学 ・小学校の先生のお話を聞く ・小学校の授業見学</p> <p>《リーダーの引き継ぎをする》→年中児に伝えることによって自己有用感を味わう ○放送当番、おひさまタイムのリーダー、誕生会の司会などの仕事を年中組に伝える。</p>

例示2 (A、B、C で分けられる場合)

〇〇幼稚園 アプローチカリキュラム

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
〇〇校区架け橋期にめざす子どもの姿	<p>A健康な心と体…遊びや活動の仕方を友だちと一緒に考える B人のかかわり…友だちと一緒に遊ぶ楽しさを感じ、つながりを大切にしながら遊ぶ C遊び・学びの力…自分なりのめあてをもち、あきらめずに挑戦する能力)</p>					
主な活動と行事	<ul style="list-style-type: none"> ・福列り ・お店屋さんごっこ ・いも掘り 	<ul style="list-style-type: none"> ・公園探検 (秋見つけ) ・生活発表会 ・運動会 ・収穫祭 	<ul style="list-style-type: none"> ・なわとび ・郵便ごっこ ・昔からの遊びを楽しもう 	<ul style="list-style-type: none"> ・まめまきをしよう ・お別れ会 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒園式 	<ul style="list-style-type: none"> ・卒園式
育てほしい子どもの姿	<p>園のリーダーとしていろいろな行事を引っ張っていくことに充実感や達成感を感じる</p> <p>友だちと一緒に挑戦したり工夫したり挑戦したりしながら遊び続ける</p> <p>集団で遊ぶことや、難しいことに挑戦してがんばることへの楽しさを感じて遊ぶ</p>					
活動のねらいと内容	A健康な心と体	<ul style="list-style-type: none"> 〇見通しをもって活動するとともに、進んで生活習慣や生活の中のきまりを大切にしようとする。 〇友だちと一緒に体を動かすことの心地よさを味わいながら、遊びを楽しむ。 〇あきらめずに最後まで取り組み、達成感を味わう。(運動会の競技、マーチング、遊戯等) 〇野菜の生長に園心をもち、収穫を楽しんだり食べる喜びを味わったりする。 				
	B人のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> 〇友だちと考えを出し合いながら遊びを進める楽しさを味わう。 〇友だちとイメージを共有し、目的に向かって活動することを楽しむ。 〇異年齢との交流の中で、自己有用感を高めるとともに、年長児としての自覚をもつ。 〇地域の方とふれあう活動を通して、様々な人と交流する楽しさを知る。 〇自分の命も友だちの命も、かけがえのない大切なものであることを知る。(栽培活動、飼育活動等) 				
	C遊び・学びの力	<ul style="list-style-type: none"> 〇身近な自然や動植物に関心をもち、不思議さや面白さを友だちと一緒に味わう。(栽培活動、飼育活動、虫取り等) 〇友だちとイメージを共有し、表現活動を楽しむ。(よここい、運動会、運動遊び、製作活動等) 〇生活の中で文字や数、色や形に関心をもち、取り入れて遊ぶ。(なわとび、カード遊び、製作活動等) 				
小学校との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼小小交流の日 ・ 小学校学習発表会見学 ・ 小学校の先生のお話を聞く ・ 小学校の授業見学 					

架け橋期のカリキュラム「遊びや学びのねらい(資質・能力)」の年長児下半期の部分を記載する。

自らむかわり 夢中になって 学びを楽しむ子ども

架け橋期のカリキュラム「主な活動・単元と行事」に記載したものは必ず入れる

〇1日の流れがわかり、自分で考えて行動する。

〇生活習慣が身につくとき、自分の身の回りのことを自分でする。

〇友だちと一緒に伸び伸びと戸外で体を動かして遊ぶ。

〇一定時間内で食べることを意識しながら、食事のマナーを守って楽しく食べようとする。

〇危険な場所、危険な遊びがわかり、安全に気をつけて遊ぶ。

〇友だちと思いを伝え合い、協力しながら遊びを進めていく喜びを味わう。

〇友だちと同じ目標に向かって活動することを楽しむ。

〇思いやりの心をもって人と接しようとする。

〇自然との関わりの中で、驚きや発見を友だちと共有する。(雪遊び、公園探検、栽培活動等)

〇生活の中で心動かすできごとやふれ、感じたことや考えを言葉、絵、音楽や動きなど、いろいろな方法で表現することを楽しむ。

〇友だちとイメージを共有しながら表現することを楽しむ。(製作活動、生活発表会、お別れ会等)

〇文字や数への関心を高め、遊びの中で読んだり書いたり数えたりすることを楽しむ。(昔からの遊び、郵便ごっこ、お店屋さんごっこ、収穫祭等)

【様式6】スタートカリキュラム 【〇〇 小学校】

架け橋期にめざす 子どもの姿	
月	
A 健康な心と体	
B 人とのかわり	
C 遊び・学びの力	
遊 び や 学 び の ね ら い (資 質 ・ 能 力)	

【例示】スタートカリキュラム 【〇〇 小学校】

架け橋期にめざす子どもの姿

架け橋期のカリキュラムにある「架け橋期にめざす子どもの姿」を記入
単元名、()内に教科等名と時数、ねらいを記入

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
A 健康な心と体 すすんで遊ぶ。	<p>遊具の使い方 (体育 2時間) 今まで遊んだことのある遊具遊びの約束を思い出し、用具の使い方や約束を理解することともに、意欲的に遊ぶことができる。</p> <p>給食を食べよう (学活 1時間) 年長時の昼食の様子を思い出し、給食の準備や片付けの仕方を覚え、友だちと協力しながら自分たちで配膳や片付けをすることができる。</p>	<p>交通安全教室 (行事 2時間) 安全に登下校するため、実際の道路や模擬道路での実地訓練を通して、交通ルールを理解し、実践することができる。</p>	<p>汗のしまっ (学活 1時間) 幼稚園・保育園で汗びっしょりになって遊んだ経験を想起しながら、体育の授業の後や休み時間の後など、汗をかいた時にはタオルで拭くこと、こまめに水分を補給する意味を理解して、実践することができる。</p>			
	<p>あいさつ・言葉遣い (学活 1時間) 職員室や保健室等に入室する際、誰にどのような用事があるのかについて、はっきりと話すことができる。</p> <p>みんななかよし (学活、1日15分モジュールで4時間) 友だちと楽しくじゃんけんゲームをしながら、お互いの顔や名前を覚える。</p> <p>一緒に歌おう (音楽、1日15分モジュールで4時間) 園で歌ったことのある歌や手遊び等を思い出し、それを友だちに伝えながらみんなと一緒に楽しく活動することができる。</p>	<p>朝の会をしよう (朝の活動 1時間) 朝のあいさつで気持ちよく1日をスタートさせ、時間割で学習の見通しを持つことができる。</p> <p>係を決めよう (学活 1時間) 年長時にみんなのために進んで行っていたことを想起させ、学級の係活動を考え、仲間と協力して取り組むことができる。</p>	<p>体育会に向けてがんばろう (体育 4時間、行事 5時間) ・かけこ遊びの経験や、園児の時に小学校の体育会を見学したことを想起しながら、体育会への競争の練習を行い、全力を出し切ることができる。 ・互いにがんばった姿を認め合い、全力を出し切った喜びや満足感を味わう。</p>	<p>お楽しみ会をしよう (学活 3時間) 1学期末を迎え、みんなが1学期を振り返り、お互いの成長を認め合うとともに、みんなが楽しめる「お楽しみ会」の計画を話し合い、ともに楽しみながら成長を喜び合う。</p>		
B 人とのかかわり 友だちと楽しく活動し、つながりを感じる。	<p>学校探検 (生活、国語、図工 12時間) グループの友だちと協力しながら校内探検をし、学校施設内の様子や働く職員を調べ、絵や言葉などで表現できる。</p> <p>学校探検で見つけた〇〇を教えよう (算数、生活 10時間) 学校探検で見つけた物や人、教室などを使って数えることと定義を図るとともに、数字を書くことができる。</p>	<p>学校の働く人 (生活、国語、算数、図工 12時間) 学校で働く人にはどんな人がいるか予想し、調査のために職員にインタビューして調べるることができる。</p> <p>たんけんカルタをつくろう (生活、国語 15時間) 学校探検で見つけたものを使ってひらがなを学習し、ひらがなを身につけるとともに、学習したひらがなを使ってたんけんカルタを作成し、定着を図る。</p>	<p>花を育てよう (生活、国語、道徳 10時間) 園で花を育てた経験を想起しながら、自分で育てたい花を決め、育てたり観察したりすることを通して、自然の不思議さ、素晴らしさを実感するとともに、命の大切さについて考えることができる。</p>			
	<p>学校探検 (生活、国語、図工 12時間) グループの友だちと協力しながら校内探検をし、学校施設内の様子や働く職員を調べ、絵や言葉などで表現できる。</p>	<p>こうえん たんけんたい (生活、国語、音楽、図工、道徳、学活 18時間) ・ペアの友だちと助け合いながら、協力して活動的に取り組むことができる。 ・公園に出かけ、次のような活動を継続的に計画に行い、気付いたことを絵や写真、文など自分なりの表現で伝えることができる。 (1) 春(夏)のこうえんたんけんたい (生活「春見つけ、国語「見つけたことを語ろう」音楽「春の音を見つけて、楽器で演奏しよう」、学活「グループで遊ぶことを決めよう」、道徳「マナーを守ろう」) →秋見つけ、冬見つけへつなげる。 (2) ざりがに たんけんたい (生活「ざりがにの絵をかこう」、図工「ざりがにになっておどろろろ」) (3) さんかく・しかく たんけんたい (算数「さんかく・しかくをみつけよう」)</p>	<p>お楽しみ会をしよう (学活 3時間) 1学期末を迎え、みんなが1学期を振り返り、お互いの成長を認め合うとともに、みんなが楽しめる「お楽しみ会」の計画を話し合い、ともに楽しみながら成長を喜び合う。</p>	<p>夏休み思い出発表会 (国語 2時間) 学夏休みの思い出や夏休みに行った作品を、みんなにわかりやすくつたえることができる。</p>		
C 遊び・学びの力 新しいことに意欲をもち、挑戦しようとする。	<p>学校探検 (生活、国語、図工 12時間) グループの友だちと協力しながら校内探検をし、学校施設内の様子や働く職員を調べ、絵や言葉などで表現できる。</p>	<p>たんけんカルタをつくろう (生活、国語 15時間) 学校探検で見つけたものを使ってひらがなを学習し、ひらがなを身につけるとともに、学習したひらがなを使ってたんけんカルタを作成し、定着を図る。</p>	<p>たんけんカルタをつくろう (生活、国語 15時間) 学校探検で見つけたものを使ってひらがなを学習し、ひらがなを身につけるとともに、学習したひらがなを使ってたんけんカルタを作成し、定着を図る。</p>			
	<p>学校探検 (生活、国語、図工 12時間) グループの友だちと協力しながら校内探検をし、学校施設内の様子や働く職員を調べ、絵や言葉などで表現できる。</p>	<p>たんけんカルタをつくろう (生活、国語 15時間) 学校探検で見つけたものを使ってひらがなを学習し、ひらがなを身につけるとともに、学習したひらがなを使ってたんけんカルタを作成し、定着を図る。</p>	<p>たんけんカルタをつくろう (生活、国語 15時間) 学校探検で見つけたものを使ってひらがなを学習し、ひらがなを身につけるとともに、学習したひらがなを使ってたんけんカルタを作成し、定着を図る。</p>	<p>たんけんカルタをつくろう (生活、国語 15時間) 学校探検で見つけたものを使ってひらがなを学習し、ひらがなを身につけるとともに、学習したひらがなを使ってたんけんカルタを作成し、定着を図る。</p>		



()年度 出雲市

年中児 そだちの応援シート



- 1 このシートは、保護者の皆さんにお子さんの様子やこれまでの子育てを振り返っていただくきっかけとするとともに、関係団体が保護者と一緒にお子さんのこれからの育ちを支える目的で、次のことに使用します。
 - (1) お子さんの成長等について保護者と園の相互理解を深めるために、幼稚園・保育所・認定こども園等が行う個人面談で使用します。
 - (2) 市の専門職員による相談を希望される保護者との相談に使用します。
 - (3) 小学校が、お子さんを迎えるための準備に利用します。※関係団体は、次のとおりです。
 - ① お子さんが在籍する幼稚園、保育所、認定こども園等
 - ② お子さんの入学予定の出雲市立小学校
 - ③ 出雲市（子ども政策課・保育幼稚園課・健康増進課）
 - ④ 出雲市教育委員会（学校教育課・児童生徒支援課）
- 2 シートを、目的以外のことに使用することはありません。
- 3 シートは、本年度5歳になる全てのお子さんが対象です。
- 4 このシートは、上記の関係団体が共有することをご理解いただいたうえで、お子さんの保護者がご記入ください。

出雲市 ・ 出雲市教育委員会 ・ 出雲市立小学校 ・ 保育所幼稚園等



()年度 年中児 そだちの応援シート



ふりがな		性別		所属園	
お子さんのお名前		住所	出雲市	町	番地
生年月日	年 月 日	現時点の 入学予定先	<input type="checkbox"/> ほぼ決まっている (予定先: _____ 学校) <input type="checkbox"/> 未定		
同居のご家族	<input type="checkbox"/> 父 <input type="checkbox"/> 母 <input type="checkbox"/> 兄・姉 <input type="checkbox"/> 弟・妹 <input type="checkbox"/> 祖父母 <input type="checkbox"/> その他				
記入者(保護者)名		続柄		記入日	令和 年 月 日

◇お子さんのここ1か月の様子や生活等について、記入できる範囲でお書きください。(記入方法は、□に✓、○印、自由記述など)

- 生活時間について 起床(時 分)頃 ・ 就寝(時 分)頃
- 食事について (1) 欠食がありますか ない ある(回/週)
(2) 偏食がありますか ない ある()
- 排泄について
おしっこやうんちは一人でできますか できる 助けが必要()
- テレビやDVD、スマートフォンやタブレットなどの電子メディアを、1日どれくらい見たり触れたりしますか。 30分未満 1時間まで 1~2時間 3時間以上(時間)
- 保護者が育児等で困った時に相談できる人がいますか。(該当する人すべてに○をしてください)
 いる → 配偶者・親・兄弟姉妹・友人・保育士や担任・医師・その他()
 いない
- お子さんの様子等について

質問項目(右欄のあてはまるところに○をつけてください)		できる	できる時とできない時がある	今はまだできない
①	片足で5秒くらい立つ			
②	線にそってハサミで切る			
③	言葉で自分の気持ちや状況を伝えたり、会話のやりとりをする			
④	一人で衣服の着脱(ボタン、ファスナーも)をする			
⑤	おもちゃや道具を友達と順番に使う			
⑥	欲しいものがあっても、説得されれば我慢する			
⑦	ストーリー性のある物語(絵本、紙しばい等)を、興味をもって聞く			
⑧	じゃんけんの勝ち負けがわかる			
⑨	手本(見本)をみて、丸や四角などがかける			
⑩	親や先生との簡単な約束を守る			
⑪	おにごっこやイスとりゲームなどのルールを理解して遊ぶ			
⑫	たくさんの中から「3つちょうだい」と大人が言うと3つ渡す			
⑬	ままごとなどで、役割を交代しながら遊ぶ			
質問項目(右欄のあてはまるところに○をつけてください)		よくある	時々ある	ほとんどない
⑭	いろいろなことに興味がうつつたり、気が散ったりする			
⑮	気に入らないとカッとなったり、かんしゃくをおこしたりする			
⑯	周りに友達がいるけど、その友達と一緒に遊ぶよりも一人で遊ぶ			
⑰	初めての場面では特に不安になったり、自信がなかったり、_____ 様子がある			

7. お子さんの「得意なこと」や「自慢できること」をご記入ください。

8. その一方で、「もう少し成長してほしいな」と思われることがあればご記入ください。

9. 子育てが「楽しいな」、「幸せだな」と感じるのはどのような時ですか。

10. その一方で、子育てが「大変だな」と感じるのはどのような時ですか。

11. お子さんの育ちについて、「心配なこと」や「相談したいこと」がありますか。

ない

ある（複数回答 可）



- 成長や発達について
- 生活習慣(排泄/食事/睡眠等)について
- くせや性格、行動について
- しつけについて
- 小学校等への就学について
- その他

「ある」場合…具体的にどんなことですか？

→ このことについて、保健師や心理士などにも相談してみたい。

12. 現在、お子さんの育ちについて、相談・医療・療育機関等を利用していますか。

利用していない

利用している（今後利用予定含む）

機関・施設名：
内 容：
利用頻度：
利用開始時期： 平成・令和 年 月～

～ ご協力ありがとうございました。～



資 料

令和5年度 出雲市保幼小連携推進委員会委員（出雲市立教育研究所研究員）名簿

区分	所属・職	氏 名	備 考
小学校	湖陵小学校 校長	落合 克彦	委員長
	神西小学校 校長	布野 光信	副委員長 カリキュラム部会リーダー
	高浜小学校 校長	廣澤 守	調査・構想部会
	北陽小学校 教頭	有田 幸樹	カリキュラム部会
	平田小学校 教頭	高見 亮一	調査・構想部会
幼稚園	中央幼稚園 園長	川上架津美	副委員長 カリキュラム部会
	西野幼稚園 園長	高橋由里子	調査・構想部会
	稗原幼稚園 園長	加藤 道夫	カリキュラム部会
	大社幼稚園 教頭	和田 博充	調査・構想部会
	湖陵幼稚園 教頭	若月 聖子	カリキュラム部会
保育所	たちばな保育園 園長	堀江 泰誠	副委員長 調査・構想部会リーダー
	すぎの子保育園 園長	鐘推 千春	カリキュラム部会
	認定こども園北陵保育園 主任	池田 由佳	調査・構想部会
	出雲すみれ保育園 主任	岡田 真弓	カリキュラム部会
	窪田保育所 主任	大野さやみ	調査・構想部会

[順不同]

任命及び委嘱期間 令和5年4月26日から令和6年3月31日